

検査のパレット

今回は血清アルブミンについてお話しします

アルブミンとは血清に含まれるたんぱく質の主成分のひとつです。

血清中のたんぱく質は 100 種類以上が存在しますがその大半がアルブミンとグロブリンの 2 種類です。アルブミンの役割は、血中の色々な物質を運搬する事と血中の浸透圧調整の目的がほとんどです。血中のアルブミンを測定する事は、肝疾患やネフローゼ症候群をはじめとした診断基準や、栄養状態の指標などに重要な検査です。

当院のアルブミン測定は、平成 26 年 6 月より以前の BCG 法から BCP 改良法に変更しております。従来の BCG 法はアルブミンだけでなく $\alpha 1$ 、 $\alpha 2$ グロブリン分画と反応し、特にハプトグロブリンと高い反応をするという欠点がありました。

BCP 改良法は酸化アルブミンと還元アルブミンに対する反応の違いや保存状態による影響を改良した方法で、アルブミンに対する高い特異性を示し、平成 25 年度日本医師会精度管理調査によると、全国 3220 施設の内 53% が本測定法を使用しています。

問題点としては、BCP 改良法はより正確なアルブミンを測定出来るようになりましたが、以前の BCG 法でグロブリンの影響を受けていた患者検体は、BCP 改良法の測定値が BCG 法より低くなります。実際、各種病態や疾患の診断基準のアルブミン値は BCG 法による測定値を使用している場合が多いため下記のガイドランは注意が必要です。

- ③ アルブミン製剤の使用基準 ② 肝予備能の指標に基づく各種治療のガイドライン
- ③ 栄養状態の指標 ④ 肝障害者の判定基準 などです。

病態識別に限り、簡単な換算式が提案されたのでお知らせします。

BCP 改良法測定値 3.5g/dl 以下の場合

BCP 改良法の測定値に 0.3g/dl を加えた値を BCG 法の推測値とする

『血清アルブミン測定値についての提言-BCP 改良法による測定値の差の取扱い』

日本臨床検査医学会 2013 年 12 月 25 日 発表より参照

質問があれば、検査室へご連絡ください。

文責：弓場富喜子 監修：石竹久仁